



ひろ せ りょう た
広瀬 良太

生年月 1983年10月埼玉県生まれ
最終学歴 2009年横浜国立大学大学院建築都市スクールY-GSA修了
業務経歴 2009年鹿島建設㈱入社
現在、関西支店建築設計部
●担当した主なプロジェクト
2010年 京橋創生館増築工事
2016年 大塚製薬工場鳴門工場守衛所
2019年 K地域 地方創生プロジェクト

■青年技術者のことば

建築をつくることで何ができるのか。私にとってこの問いの先には、「未来」があります。用途規模は様々ですが建築をつくるということは、都市や環境、私たちの生活や社会を少しずつ変える力があると信じているからです。建築単体では点で終わってしまいますが、社会に対して「気づき」を与える建築をつくることで、外部に発信し面的に拡がり未来をつくる。そのような建築を、今後生み出していきたいです。

伝統と革新。私が設計者として、常に意識していることです。設計者にとっての伝統とは「人間性」、革新とは「挑戦」です。建築とは、施主・構造・設備、現場・業者、官公庁関係者など、人とのつながりによって初めて構築され、その関係性の中から建築が生まれます。その関係性を築くのに最も大事なことが人間性であり、設計者としての品格・資質が求められます。また、どのプロジェクトにおいても失敗を恐れずに、勇気を持って何か1つでも新しいことに挑戦する。無限の可能性がある建築という「ものづくり」に携われることを誇りに、そして楽しみながら邁進していきます。

■すいせん者

小松啓一
鹿島建設㈱ 関西支店
建築設計部長



来訪者を導くホワイトスクリーン

■大塚製薬工場鳴門工場 守衛所 (2016)

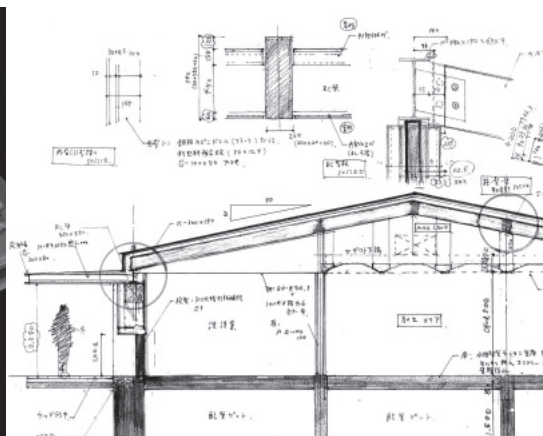
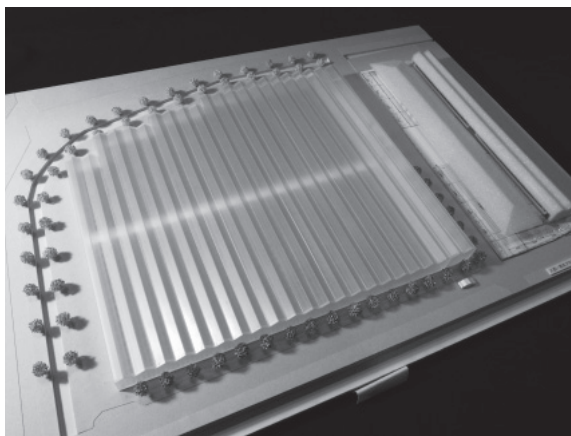
大塚グループ発祥の地である大塚製薬工場鳴門工場の新守衛所計画。緑色に塗られた古い既存工場群がみえる中で、工場の顔である守衛所をいかに計画するかという課題に対し、古い工場群を包み、訪れる人々を導く1枚の白い壁「ホワイトスクリーン」をコンセプトに展開した。高さ3.5mの白いアール壁とアクセントとなる底のみが表出し、事務室や更衣室、工場内の受水槽といった機能は壁の背後に隠した平面構成としている。



交差点のシンボルタワー (2010)

■京橋創生館増築工事

中央通りと鍛冶橋通りが交わる京橋交差点に建つ事務所、店舗、展示場からなる中規模複合ビルである。銀座・日本橋からの視線を受けとめるアイストップとしての役割が求められ、アルミパネルによる外皮を纏ったファサードとした。この外皮は環境負荷の低減だけでなく、上下方向の開閉率に変化をつけており、時間や見る角度により様々な表情を見せる。



農業を核としたまちづくり拠点

■K地域 地方創生プロジェクト (2018~)

「農業・流通・食」を伝える地方創生プロジェクト。農地（水田・畑）の購入や次世代型のビニルハウスの建設等、地域資源と最先端技術を活かしたまちづくりを通じて、100歳時代に向けた多世代が働ける地方の在り方を目指す。その中心となるプラットフォームとして、加工・販売・飲食の6次産業施設を計画。隣接するビニルハウスのモジュールに合わせた80m×13.5mの平屋建の建物は、RC・S、そしてこの地域産の木材による混構造。2020年夏の開業予定。